

大麦管理情報 第2号

ほ場内排水の徹底で、湿害回避

1. 播種

9月中旬以降の長雨等の影響により、大麦の播種作業が遅れがちとなっています。

早期の排水に努め、土が乾いた状態で、播種しましょう。

なお、10月中旬以降播種の場合は、播種量を増やして下さい。

【目標苗立ち数と播種量の目安】

播種時期	目標苗立ち数 (本/m ²)	播種量(kg/10a)	
		ドリル播き	散播
10月中旬	200	8.5	9.0
10月下旬	230	10.0	10.0

※10月末までには、播種作業を終える。

2. 雑草対策

雑草の多発が懸念されるほ場では、播種発芽前(雑草発芽前)までに、トレファノサイド粒剤 25 又は乳剤を散布しましょう。

※散布量等詳細は大麦栽培暦を参照して下さい。

3. 排水対策

すでに播種されたほ場では、速やかに、**溝の手直し**を行い、**ほ場内排水を徹底**しましょう。

◎排水対策チェックシート (全てにチェックが付くようにしましょう!)



チェック欄	チェック項目
	排水溝は、 額縁排水溝と繋がっている。
	排水溝が崩れて 詰まっているところがない。
	排水口の手前が深く掘り下げてあり、 また、 水吐板が外してある。
	暗渠のあるほ場は、 暗渠栓を外してある。

4. 年内追肥の実施

基肥がBB特15号の分施肥体系の場合は、は種1ヶ月後を目安に追肥を行きましょう。